

品川区ジェンダー平等啓発誌[マイセルフ]

2024
春号
VOL. 69

myself

自 分 ら し く

特集

ジェンダー平等を目指し、 女性の人材育成を考える

—今、大学としてできること、
すべきこと

INTERVIEW 清泉女子大学 安齋 徹 教授



ジェンダー平等を目指し、女性の人材育成を考える

特集

— 今、大学としてできること、すべきこと

今回は、日本で唯一の地球市民学科で教鞭をとられている、清泉女子大学の安齋徹教授にお話を伺いました。

大学卒業後、一般企業に勤務されたのちに教員を目指したきっかけは何ですか。

企業では28年間勤め、営業、事務、企画、秘書、人事など様々な業務を経験し、海外でも6年間働く機会を頂きました。その時に見た女性が活躍する姿と、

当時の日本の状況を比べると雲泥の差を感じました。そんな経験の中で人材育成の仕事は自分の天職だと感じて、40歳の半ばから働きながら大学院に通い、「人の成長を支援し、笑顔を増やすこと」をミッションとして認識し、幸い大学教員に転身できました。

清泉女子大学の地球市民学科で教鞭を取っていますが、日本で唯一の地球市民学科とはどのようなことを学ぶ学科でしょうか。

地球市民学とは、グローバル社会や地域社会が抱える諸問題を学際的に研究するための学問です。

2001年に創設された地球市民学科では、机上だけでなく、教室を飛び出し現場での学びを重視しています。社会課題を解決できる人を育成していくために、頭の中や教室の中だけで分かったつもりにならないこと、現場で五感や肌身で感じることをとても大事にしています。世界のエリートが今一番

interview

清泉女子大学

安齋 徹 教授

行きたい大学として知られる米国のミネルバ大学の教育方法を参考に、知識だけではなく、モノの見方・考え方を学ぶ「101のコンセプト」の授業も始めました。社会が抱える課題を、自分自身に関係がある身近な問題として理解し、他者と協働しながら具体的な解決策を提示できる地球市民を育成しています。言わば、未来を創るチェンジメーカーを育成する学科です。



取材に伺った清泉女子大学は、大正時代に島津忠重公爵の邸宅として建築されたイタリア・ルネサンス様式の洋館で、重要文化財に指定されています。

安齋教授のゼミナール生が企業や地域と積極的に連携していますが、企業と学生がコラボレーションする大きな意義は何だと考えますか。

20世紀の成長社会から21世紀の成熟社会に移行する中、求められる力も「正解を探り当てる情報処理力」から「納得解を創り出す情報編集力」に変化しています。私のゼミでは、企業や地域と連携して、様々な課題解決に取り組んでいます。商品開発や企画提案など「解なき問い」に挑戦し続けることに意義があると考えています。

ジェンダーギャップ指数ランキングが世界の中で低い日本は、何を意識して変えていく必要があると思いますか。

女性の活躍を推進するためには、制度、風土、意識の3つの軸が必要だと考えています。

制度は女性活躍推進法が制定され、環境整備が進み、風土も政策目標が掲げられ、官民ともに社会的気運は高まってきました。一方で、女性自身の意識が、逡巡している可能性があることを危惧しています。

国立女性教育会館が行った「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」によると、入社直後でも男性より女性の管理職志向は低いのですが、入社後の5年間で、女性の意識はさらに下がってしま

うという結果がでています。女性の管理職志向が入社時から低く、さらに低下していることについては、採用時と入社時のギャップ、指導の不十分さ、ロールモデルの少なさ、など様々な要因が考えられますが、女性自身も前向きな気持ちを持って欲しいと思います。こうした意識を改革するには、大学教育の中で意識を高めていくための土壌づくりが必要であると思っています。

女性側に視点が置かれることが多いですが、男性側の不平等や生きづらさを感じるという声について、何か考えるところはありますか。

日本ではかつて男性は仕事、女性は家事、男性は「競争で勝ち上がれ」「弱音を吐くな」と言われてきた背景があり、悩める男性も多く存在しています。

「女性らしさ」「男性らしさ」という言葉の概念ではなく、「自分らしさ」が大切だと思います。男性、女性、LGBTQの方も含めて、課題はあると認識しています。

女性の未来や人材育成に大学としてできること、すべきことは何だと考えますか。

人材育成の観点から、コミュニケーション、リーダーシップ、クリエイティビティの3つを特に身に

つけて欲しいと願っています。私の授業では、毎回席替えをして、初対面となるペアを作って、どんな人ともコミュニケーションをするという機会を作っています。

リーダーシップについては、全員がリーダーを経験して、自分らしいリーダーシップを発揮するために安齋ゼミではリーダー輪番制にしています。リーダーとしての案件と、フォロワーとしての案件を同時に経験することで、新たな気づきを得るきっかけになります。

会社員時代の1991年から1997年のニューヨークでは、女性の管理職も当たり前のようにいて、子育てしながら働くのも当たり前だったので、それはカルチャーショックでした。帰国後は反対に日本に違和感を覚えました。

私自身、管理職のイメージが悪くなく、リーダー像を変えるべきだと思っています。今求められているリーダー像は、今までのカリスマ型から、一人ひとりの意見を聞いて合意形成を図る協調型のリーダー像です。男性型リーダー、女性型リーダーという言葉もありますが、私は自分らしいリーダーでいいと思います。大学でやるべきことは色々ありますが、リーダーシップとは何かということを学生時代にしっかり学んでいく必要があると考えています。

また、クリエイティビティを鍛えるために、1年間に1000個のアイデア出しを目標にする「企画1000本ノック」を安齋ゼミでは実施しています。常に新しいことを考えることで、クリエイティビティは才能ではなく、練習であると学生たちに知ってほしいという思いからこの企画を実施しています。

ワーク・ライフ・バランスの理想と現実、近づいていると思いますか。また、近づけるために意識すべきことは何だと考えますか。

近年の働き方改革の進展や、コロナ禍によるテレワークの普及により、ワーク・ライフ・バランスの理想と現実には近づいていると感じています。家事や育児の負担では、まだまだ女性に負荷がかかっている

て、共働き家庭での男女の役割分担などまだまだ課題は多いと認識しています。

ワーク・ライフ・バランスの定義として、仕事、家庭、社会、学習、自分という5つの軸をバランスに考えていて、私は5つの軸を色で表現しています。仕事は黒、家庭を赤、社会を緑、学習を紫、自分を青で表現して、五色ボールペンで色分けして日記を書いています。日記を書くことでワーク・ライフ・バランスの現状が可視化できて、理想は日記がカラフルであるということです。カラフルかどうかで、バランスに気づけるようにして、時々振り返っています。自分のワーク・ライフ・バランスを客観的に見つめて、自分自身の現状に気づける方法を見つけることが大切だと考えます。

著書『アニメ映画から学ぶ生き方のヒント』では、世代別に生き方のヒントが書かれていますが、未来を担う世代に特に伝えたいことはありますか。

1つ選ぶとしたらクリエイティブです。今、現実的には悲観的なことがたくさん起きていますが、一人ひとりが明るい未来を創っていくことが大事だと



取材中は終始和やかな雰囲気の中、丁寧にご回答いただきました。

思います。自分はクリエイティブではないと思う人が多いですが、元来人間は全員がクリエイティブだと思っています。例えば子供の頃の絵って非常に想像力豊かでカラフルで素晴らしいですね。それをもう一度呼び戻し、一人ひとりがクリエイティブになって、未来を創るのは自分だというような意識を持つことが大事だと思います。

自治体がジェンダー平等を推進するために必要な行政施策などについて、ご意見を伺えますか。

平和で心豊かな人間尊重の社会の実現を目指す品川区は、「人権尊重都市品川」を宣言し、差別の実態の解消に努め、人権尊重の思想の普及啓発と教育を推進することを誓っています。品川区らしいジェンダー平等やワーク・ライフ・バランスを推し進めて、平和で心豊かな人間尊重の社会づくりを牽引していくことを期待しています。

現在、私も委員として、第18期品川区行動計画推進会議報告書の作成を進めているのですが、「意識」・「行動」・「情報」の3つの視点から、区民の方と連携した政策を推進していただきたいと願っています。

品川区は、すごく可能性を秘めている区だと思います。みなさんのいろいろな意見を集約し、一歩ずつ歩みを進めていくことで、ジェンダー平等やワーク・ライフ・バランスの先進区になる可能性があると思います。

マイセルフを読んでいる、すべての方に一言お願いします。

2023年の日本のジェンダーギャップ指数は146カ国中125位と低迷しており、言わば「女性活躍後進国」である現状ではありますが、変革の当事者は一人ひとりです。品川区の平等を推進する啓発誌のネームが「マイセルフ」ということには大きな意義があると思います。一人ひとりが理想を高く持ち、できることから一つずつアクションを起こしていくことを始めてほしいと祈念しています。

編集後記

ジェンダーギャップに関して、女性側の管理職意識の低下にも問題があると知ることができました。私自身積極的にリーダーという役割につかないほうで、今は協調型のリーダーが求められていると知り安心しました。大学の中でも社会を知ることの重要性を実感しました。(浦原 夏花)

ジェンダーギャップ指数が低いということで、女性の立場が注目されますが、男性やLGBTQの方などの立場に立って、課題を考える必要があると感じました。自分自身も変革の当事者の1人であることを忘れず、向き合っていきたいと思っています。(米樹 結菜)

地球市民学科の学生として普段からジェンダー平等について考える機会がありますが、女性視点で考えることが多かったため、今回自学科教授の安齋教授と男性目線からジェンダーについて深掘りをするのができて大変良い経験となりました。(三好 未緒)

今回のインタビューの中で安齋教授が実践されているアイデアを出すときの取り組み方がとても印象的でした。自分が生活している中でちょっとモヤッとした経験を放置せず、それを改善するようなアイデアを出すという考え方は、私も今後の生活で実践していきたいと思いました。(徳村 日向)

今後女性が社会生活においてより良い環境で過ごすためには、女性が自らのクリエイティビティを鍛え、協調性を高め、社会に順応していけるだけの強さを兼ね備える必要があるのだということを今回のインタビューを通じて学びました。(中ノ瀬晴子)

ジェンダーレス社会の台頭を受けて、女子大学の文学部も自らの存在意義を問い直す必要があることを認識しました。インタビューを通じて、私たちが積極的に行動し、発信することで、未来を変える力を持っていることを実感しました。今回のインタビューをきっかけに、自らの人生や社会の在り方について思考するようになりました。(倉又三冬)

今回のインタビューを通して、「ジェンダー平等」というテーマの重みを改めて考える機会をいただきました。女性だけではなく、男性目線での配慮や様々な思いを安齋教授の意見をもとに考えるきっかけとなりました。今回学んだ考え方や行動を、自身の普段の授業や生活に少しずつでも取り入れていきたいと思いました。(今中 瑠璃依)

清泉女子大学 編集委員のみなさん



男女共同参画推進講座報告

■ 令和5年10月22日(日) 14:00~16:00 / 会場参加3名、オンライン参加5名

『絵本から読み解くジェンダーバイアス』

おとぎ話の中にあるジェンダーバイアスを見つけてみませんか？

| 講師 | 細川 一美 氏 (気持ちワークショップファシリテーター)

[参加者の感想]

○ジェンダーフリーが進んで行かないのは、性差の合理性を理解するという段階を踏まないで、みんな同じにしたほうが良いとする考え方があるからのように感じます。

■ 令和5年11月9日(木) 18:30~20:30 / オンライン参加13名

『アンコンシャス・バイアス講座』

女の子は「わたし」、男の子は「ぼく」男女別の自称詞、使いにくくないですか？

| 講師 | 中村 桃子 氏 (関東学院大学教授。博士。)

[参加者の感想]

○自称詞について、何気なく使っているが、実は自分らしさ・アイデンティティを表現するものであったことは新たな気づきでした。

■ 令和6年1月23日(火) 18:30~20:30 / 会場参加6名、オンライン参加12名

『LGBTQに関する基礎知識』

的外れな「思いやり」から卒業しよう

| 講師 | 森山 至貴 氏 (早稲田大学文学学術院准教授)

[参加者の感想]

○LGBTの意味を間違っていたことがわかり、説明がわかりやすくて勉強になりました。

■ 令和6年2月28日(水) 18:30~20:30 / 会場参加8名、オンライン参加10名

『男らしく働く？ 自分らしく生きる？』

一仕事と暮らしのジェンダー入門

男性の生きづらさに向き合い、自分らしく働くための方法を学びます。

| 講師 | 清田 隆之 氏 (文筆業、恋バナ収集ユニット「桃山商事」代表)

[参加者の感想]

○男らしさに少し距離をおいているという清田さんの言葉が印象に残りました。もっとbeing(そこにあるもの、感情、存在するもの、個性、その人らしさ)に注目して、他者とコミュニケーションしていきたいと思いました。



男女共同参画講座報告

■ 令和5年11月11日(土) 15:30~17:00 / 会場参加14名、オンライン参加6名

『アニメの少年・少女ヒーローにみるD&I』

~アンコンシャスバイアスを超えて

| 講師 | 須川 亜紀子 氏 (横浜国立大学教授)

[参加者の感想]

○アニメに注目して男女の社会的立ち位置や当時の価値観を学べて、わかりやすく楽しかったです。

★ワークショップ「アロマキャンドルを作ろう」を同日開催しました。



令和6年度 総合相談と講座のご案内

女性相談員による総合相談 **無料**

人間関係、家族の問題、配偶者や恋人などからの暴力(DV)や心や生き方、セクシュアリティなどの悩みごと、また離婚、相続等、法律に関することなどお気軽にご相談ください。(性別問わずどなたでもご利用ください。)

※原則、品川区在住の方が対象です。

面接相談 事前予約制

予約電話: **5479-4104** ※予約受付時間 平日午前9時~午後5時(年末年始除く)

	相談方法	相談日程	相談時間
法律相談	面接相談	第1水曜日・第2火曜日	午後1時~3時30分
		第3月曜日	午後5時30分~8時
DV相談	面接相談 または 電話相談	毎週金曜日 (第2金曜日を除く)	午後1時~4時
		第2金曜日	午後5時30分~8時30分
カウンセリング 相談	面接相談	第4木曜日	午後1時~4時

電話相談 予約不要

相談専用電話: **5479-4105**

<カウンセラーによる電話相談>

第1・2・5 木曜日 …… 午前10時~午後3時30分

第3 木曜日 …… 午前10時~午後7時30分

※上記日程が祝日または休館日の場合は、お休みや日時変更となります。詳しくはホームページでご確認いただくか、お電話でお問い合わせください。

法律相談 …… 法律に関すること
【弁護士】

カウンセリング相談 …… 心と生き方の
【カウンセラー】 悩みごとなど

DV相談 …… DVに関すること
【専門相談員】

男性のDV相談は、事前予約のうえ電話相談となります。

令和6年度ジェンダー平等推進講座のお知らせ

<会場> ジェンダー平等推進センター 会議室 (品川区東大井5-18-1 きゅりあん3階)

<問合せ先> ジェンダー平等推進センター 【電話】03-5479-4104 【FAX】03-5479-4111

※内容や日程については、変更となる場合がありますので、最新の情報は広報しなごや品川区HPでご確認ください。

月	内容	月	内容
7	防災講座	11	DV講座
8	ワーク・ライフ・バランス講座	12	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ講座
9	ジェンダー平等講座	1	セカンドライフ準備講座
10	性の多様性尊重(LGBTQ)講座	2	男性のための生き方講座

月	内容	月	内容
11	ジェンダー平等推進フォーラム2024 会場: きゅりあん小ホール	7・10 12・2	~LGBT等やその友人、家族向け交流スペース~ みんなのひろば